

(一社) 食品需給研究センター

果物加工品・野菜加工品・味噌・水産加工品

基本情報

対象国	アジア・欧米等	輸出額	2億1,402万円（見込）	加盟者数	10団体（※）
主な販売先	外食、小売	活動地域	全国	品目数	複数
希望スキーム	間接輸出	備考	※2022年度のGIの取組参加団体		

全国各地の価値の高い優良な地域ブランドの確立、GI産品を用いた加工品の輸出拡大を目指す

輸出の潜在的な需要が高いにもかかわらずサプライチェーンを構築できていない優良な地域ブランドの地位を確立するために、各事業者のGI（地理的表示産品）産品やGI取得を目指す産品を用いた加工品の輸出拡大を目指して支援を実施。

団体概要

所在地	東京都北区
設立年	昭和42年
事業内容	食品の生産・加工・流通・販売に関する調査研究・意見提言
認証取得	-
生産規模	-



取組の経緯 / 概要

- ・食料及び食品の生産、加工、流通、販売及び消費の各分野にわたり、時代のニーズに応えるさまざまな課題について調査研究を行い、これにかかわる産業の発展、振興を図るとともに、このことを通じて国民生活の向上に寄与することを目的に設立。
- ・今後輸出において低価格競争が進み利益確保が難しくなることが予想されるため、地域ブランドが確立し、我が国の知的財産として保護されている地理的表示（GI）産品の輸出の市場開拓及び輸出拡大を目指す。
- ・2015年の地理的表示保護制度の施行以来、全国各地の生産者団体のGI申請登録の支援、登録団体の連携による認知度向上及び販売促進を支援する事業を実施している。

取組の成果

- ・輸出額：1億8,861万円（2021年度）→ 2億1,402万円（2022年度見込）
→ 3億5,622万円（2025年度目標） ※全品目合計
- ・FCP商談シートの作成：10件
- ・展示商談会への出展（海外：シンガポール FOOD JAPAN2022 7社出展・商談56件）

取組のポイント

地域の伝統的な食品としての価値訴求を目指し、GI産品やGI取得を目指す産品を原料とした加工品の輸出を支援

輸出を進める上で抱えていた課題

TASK

課題

1

今後の輸出において低価格競争が予想され、打破するために価値を訴求する必要がある

TASK

課題

2

GI産品の認知度がそれほど高くなく、各事業者がGI取得の意義を理解していない

TASK

課題

3

GIの申請や、GI産品を活用した加工品の開発について、方法がわからない事業者が多い

輸出成功のポイント

地域の特色ある伝統的な食品として価値を訴求

GI産品あるいはGI取得を目指す産品を原料とした加工食品の開発・輸出拡大に取り組む

「日本地理的表示協議会」の発足

日本地理的表示協議会では地域ブランドとしてGI産品の価値を理解して貰えるよう普及・啓発を実施

GIアドバイザー・輸出アドバイザーによる支援

事務局が生産者団体・事業者と調整の上アドバイザーを派遣し、GI申請や商品開発・販促資材作成等輸出に関することを支援

サプライチェーン別取組

GI産品を用いた加工品の開発

- GI産品・GI取得を目指す産品の品質のよさを活かした加工品を開発するため、食品メーカー、小売業、外食等との連携による商品開発を実施

商品の包装デザイン・販促資材の作成

- ラベルに輸出先の言語・規制に対応した内容の表示
- 国内外の展示商談向けのポスター・パンフレット・レシピ・動画等の効率的な商談・販促ツールの整備

FCP商談シートの活用

- 商品の仕様、特徴・メッセージ、事業者の経営概要について商談の際にバイヤーに伝えるため、日本語・英語版を作成

商品選定・開発

流通

販売

今後の輸出拡大に向けて

これまで培ってきたGI登録産品へのサポートや加工品輸出拡大に向けた支援のノウハウを活用するとともにGIアドバイザー及び輸出アドバイザーによる支援も実践し、輸出先ニーズに合ったGI加工品の開発や輸出ルートの確立を目指す。